



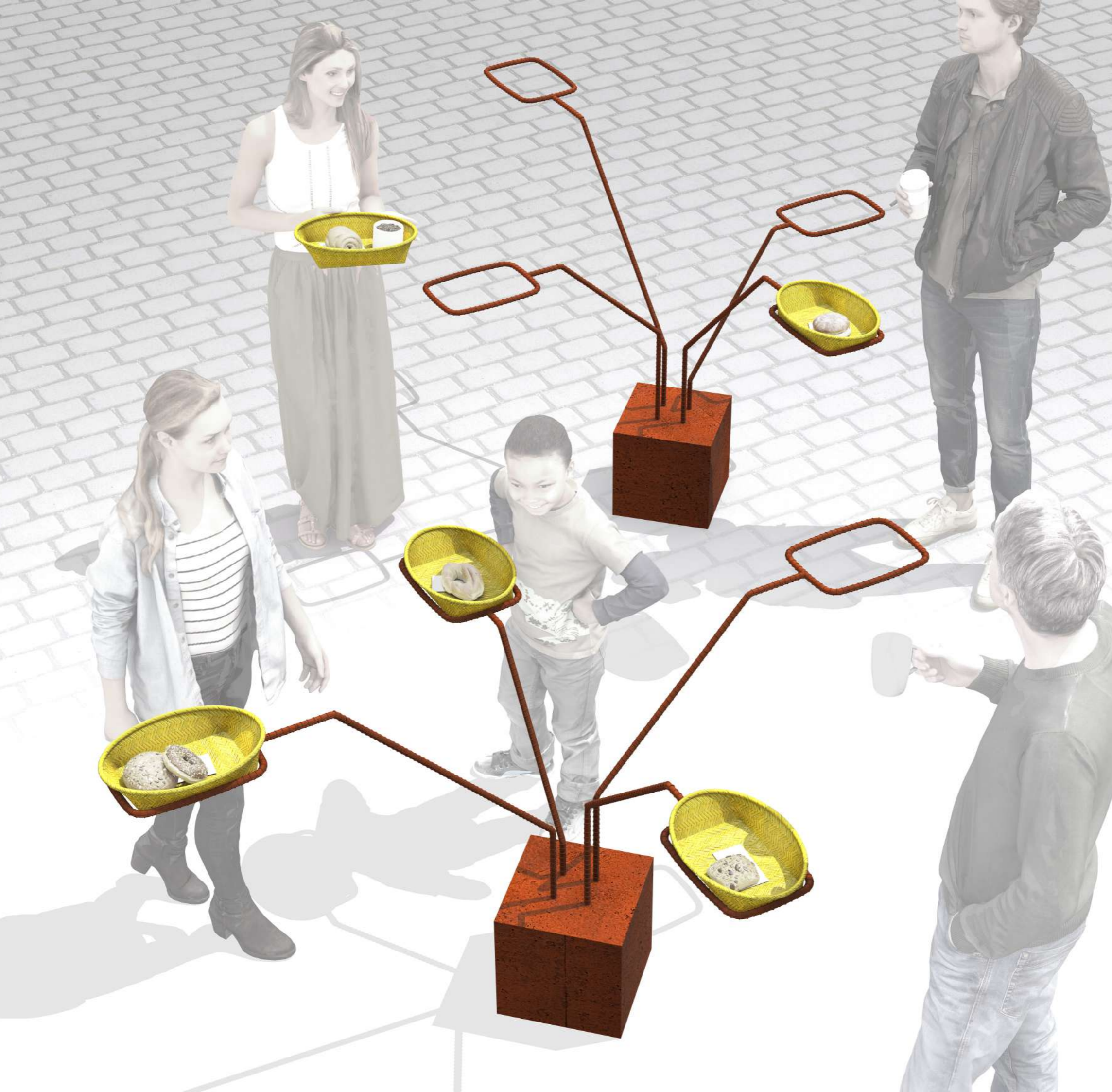
■鳥越地区と鳥越竹細工

鳥越地区は、2019年より横浜市と「脱炭素社会・再エネ連携協定」を結び活発に交流のある岩手県二戸郡一戸町の北部に位置します。

地区の伝統工芸である鳥越竹細工は、縄文時代の土器にその痕跡を残すほど古くから続くといわれ、記録としても元禄年間以降300年の歴史をもちます。

鳥越独特の主材料のスタケは、細くて丈が高く、節の低い笹です。その光沢ある質感としなやかさを生かし、さらにそれを細く、薄く加工する特殊な伝統技法と様々な編み方によってつくられる製品は軽量ながら耐久性に優れ、手に柔らかく弾力があり、使われ続けることで、より艶やかになります。

▼作業の様子と過去作品



# TORIGOE BAMBOO TABLE

村上素子 (竹細工作家)  
+  
山本想太郎 (建築家)

岩手県鳥越地区の伝統工芸である「鳥越竹細工」の技法でつくられたカゴと、異形鉄筋による受け台を組み合わせたテーブル。

そばにある屋台やお店などでカゴに入った食べ物を購入し、それをそのまま運び受け台にはめ込むとテーブルになります(カゴは食後返却)。テーブルを自身で完成させるというわかりやすくシンプルな動作で、パブリックスペースと人とのインタラクティブな関係性をつくります。

また鳥越竹細工の手仕事の風合いと独特の材料であるスタケのなめらかな手触りが優しく自然を感じさせ、キング軸の都市的な空間にいながら、ピクニックをしているような感覚を呼び起こします。

